

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 271 回 益々、日本の会社をダメにする「新型うつ病」

2008.8.16

ある情報誌に、こんな例が載っていた。(『日本の人事』憐アイ・キュー)

<http://jinjibu.jp/GuestBizgArticle.php?act=dtl&id=23> ~ うつ病の新しいタイプ ~

「...20 代男性 B, (中略)ある時、上司が B さんの業務態度を注意したことをきっかけに、会社を休むようになってしまった。数日後、B さんから「うつ状態のため休養を要す」という診断書とともに休職願いが郵送されてきた、びっくりした上司が本人に電話したところ、「出勤前になるとうつ症状がひどくなるので、出社が不可能、主治医からは仕事のストレスが原因と言われたが自分もそう思う、ついでに、傷病手当金の手続きをお願いしたい」ということだった。結局 B さんは数ヶ月の休職に入ったが、心配した上司がたまに電話を入れても、悪びれる様子もなく「気晴らしが必要だと言われているので趣味のゴルフは続けている」と語るのだった。さらに、しばらく電話が通じず心配していたところ、「せっかくの機会だし、療養をかねてハワイでパラセーリングとゴルフをしてきました」などと、あっけらかんと話すのだった...」

「新型うつ病」なるものが蔓延しているのだという。特徴的なのは、仕事や日常生活がままならないことに対して従来型の『自分を責める』のではなく、『他人や環境のせいにする』傾向が強いこと。「会社が悪い」「上司が悪い」「異動させられたのが悪い」などの言葉が口癖のように語られる。殆どが 20~30 代前半の若い世代に発症して、逃避型や回避型などと呼ばれている。これまでの「うつ病」といえば、几帳面でまじめな人がかかりやすく、落ち込み、自分を責め、自殺に至るケースが多いというイメージだった。しかし、07 年から急激に増えだしたとされる「新型うつ病」は、工作中だけうつで、帰宅後や休日は普段通り活発に活動する。自分を責めるのではなく、身近な人間や社会に対して攻撃的な態度になり、休職したとしても会社や同僚にかける迷惑などあまり感じない、というのが典型らしい。(一部・香山リカ著『うつ病が日本を滅ぼす!』参照 2008 年 5 月 20 日刊)

会社の中で、こんな若者ばかりいたら、それこそ経営は回らない。これらがみんな診断書付で、いかにも権利を行使するかの如く、堂々と休まれたら、経営者はたまったものではない。昔はこんな連中のことを「くれない族」と呼んだ。「私の思ったようにやってくれない」「くれない・くれないで日暮らし過ごす「くれない族」である。義務を果たすことを忘れ、権利だけ主張する、他人や周りのことは関係ない、「ジコチュウ」とも言った。

「貴様、何を逃げてばかりいるんだ！向かって来い！！」なんて、鬼軍曹みたい上司もいた記憶がある。「貴様の根性、鍛え直してやる」、手段はともかく、上司にも、そんな優しさと愛情があったような気もする。

昔は、たぶん「ダメ人間」と烙印されたタイプが、今は堂々とした患者さん。不当な扱いをした上司は人権問題として槍玉に挙げられる。だからつい、上司も「貝」のように口を閉じてしまう。もはや会社に、鬼軍曹はいない。長期休暇をハワイで過ごし、気分転換にゴルフ三昧で、一体労働者としての責任は誰がとるべきなのか。

それでもはっきりしていることは、経営の責任は、常に「経営者」。これ以上「新型うつ病」が蔓延したら、日本の会社はダメになる...中小企業経営者の本音かもしれない。